

RRR 財務大臣賞(1件)

Reduce Reuse Recycle

財務大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野	受賞者名
	所在地
	受賞テーマ

株式会社リカーマウンテン

京都府京都市下京区

～江戸の昔より酒屋は循環型社会の要～ アルミ缶回収累計 10 億缶達成！

～時代は、瓶ビールから缶ビールへと変化～ 『リユースからリサイクルへとバトンタッチ』
 受賞者は、積極的に以下の取り組みを実施している。

【リユース】

1990 年の設立当初より、ビール瓶や一升瓶など空き瓶の有償引き取りを実施している。紙パックなど、新たな包材が増える中、全店でリユース瓶の回収を継続している。特に滋賀県では、不燃ごみの瓶類の回収日でもリユース可能なビール瓶、一升瓶はゴミとして引き取ってもらえない（残される）システムとなっている。そんな中、各店舗に持ち込めば 1 本 5 円の有償引き取りを実施していると多くの方に認識され、回収に協力していただいている。

【リサイクル】

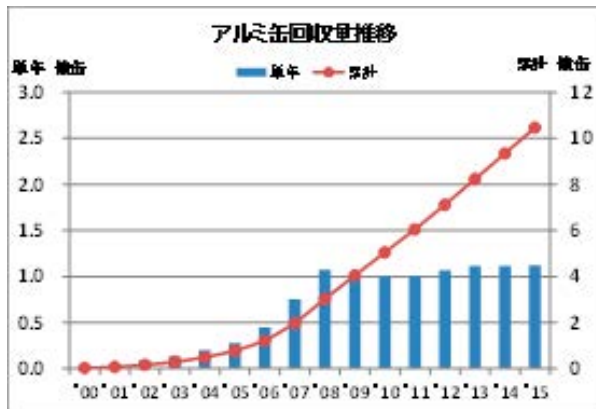
アルミ缶の回収は 2000 年より開始した。累計 1000 万缶になるまで、約 1 年半かかったが、その後飛躍的に回収数を伸ばし、2008 年には年間回収数 1 億缶を突破した。しかし、同年開催された北京オリンピック以降、アルミ相場が急落し、回収ポイントの還元率を下方修正せざるをえない状況となり、以降加速度的な伸びは無くなったが、コンスタントに年間約 1 億缶を回収してきた。2015 年 8 月には累計 10 億缶を突破した。そこで、同年 10～11 月にはアルミ缶リサイクルポイント 3 倍キャンペーンを実施し、様々な広報活動も行いさらなる認知を図った。

【リデュース】

レジ袋の削減については 2008 年より重点的に取り組みを開始した。まず 2008 年 2 月より、レジ袋削減キャンペーンを実施し、ECO バッグの無料配布を行い、同年 6 月には全店でレジ袋有料化に踏み切った。同年 6 月には京都市と、同年 9 月には名古屋市と、そして 2013 年には滋賀県とレジ袋削減に関する協定を締結した。率先した取り組みは、今やスーパーなど小売業のレジ袋有料化の模範となっている。レジを経由した客数とレジ袋の販売数を比較することで、算出するレジ袋削減率は当社ではコンスタントに 90%を超えるほどの認知に繋がっている。

また、包装材を使用しない究極のエコ、タンクや甕、樽から、お客様よりお持ち頂いた PET ボトルに充填して販売する『焼酎の量り売り』も 2004 年より 2 店舗で開始した。現在では 83 店舗で実施中のこのシステムは、割安にお求めいただけることで、しっかり定着している。

発行季刊誌カバタツピでは、アルミ缶のリサイクルや、空き瓶のリユースの実態を取材し、現状を消費者に対し解説しており、リユース、リサイクルの現場での問題点などを分かりやすく紹介し、啓発普及に努めた。



中身以外は全てお店に戻しリサイクル (空き缶と空箱は返却)